

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

令和元年度病害虫発生予報第4号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6911 (代表) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

## 病害虫発生予報第4号 (予報期間：7月中旬～8月上旬)

### 予報内容

#### 水 稲

**穂いもち**の発生は**平年並**と予想される。出穂前後の防除は必ず実施する。また、葉いもちの発生地域では、出穂前後の防除後も注意深くほ場を観察し、さらに進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

**紋枯病**の発生は**平年並**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

**斑点米カメムシ類**の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める【病害虫発生予察注意報第1号（令和元年7月11日付）参照】。

**ツマグロヨコバイ**の発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

#### 大 豆

**紫斑病**の発生は**やや少**と予想される。防除適期は幼莢期から子実肥大期である。

#### 果 樹

**ナシ黒星病**の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

**カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

#### 野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

**スイカつる枯病**の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

**スイカ炭疽病**の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

**アザミウマ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**オオタバコガ**の発生は**やや多**と予想される。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

**コガネムシ類**の発生は**やや多**と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動の期間です。

## —気象予報—

1か月予報（令和元年7月4日付け 新潟地方気象台）

予報期間 7月6日～8月5日

### [確率予報]

気温	低い	40%	、	平年並	40%	、	高い	20%
降水量	少ない	20%	、	平年並	40%	、	多い	40%
日照時間	少ない	40%	、	平年並	40%	、	多い	20%

### [概要]

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

- ・7月6日（土）～7月12日（金）

前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

- ・7月13日（土）～7月19日（金）

前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

- ・7月20日（土）～8月2日（金）

太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。  
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

## 1 水稻の病害虫

### 穂いもち

発生時期	出穂期以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 穂いもちの初発は未確認（7月4日現在：平年初発7月1日）（-） (2) BLASTAM、7月1半旬の感染好適条件の出現は平年並（±） (3) 気温は平年並か低い（+）
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。 (2) 穂いもち発生地域では、出穂前後の防除後も進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

### 紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 初発はほぼ平年並（7月3日確認：平年初発6月30日）（±） (2) 茎数：平年並（±） (3) 気温は平年並か低い（±）
防除上の注意事項	(1) 発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

### 斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多（+） (2) 気温は平年並か低い（±）
防除上の注意事項	(1) 7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。 (2) 8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。

### セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少（-） (2) 気温は平年並か低い（±）
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

### コブノメイガ

発生時期	多飛来期は7月下旬
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は平年並か低い（±）
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

## ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

## フタオビコヤガ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) フェロモントラップでの発生は少 (-) (3) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

## 2 大豆の病害虫

### 紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 気温は平年並か低い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は幼莢期から子実肥大期である。

### ウコンノメイガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 生育が旺盛な圃場、葉色が濃い圃場で多発するので注意する。 (2) 7月6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

### アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 3 果樹の病害虫

### ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-)

- 防除上の注意事項
- (2) 気温は平年並か低い(±)
  - (1) ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

#### ナシ黒星病

- 発生時期 連続発生  
発生量 やや多  
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少(－)  
(2) 降水量はほぼ平年並か多い(+)  
(3) 気温は平年並か低い(+)
- 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。

#### リンゴ斑点落葉病

- 発生時期 連続発生  
発生量 やや少  
予報の根拠 (1) 現在の発生は少(－)  
(2) 気温は平年並か低い(±)
- 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

#### カキ炭疽病

- 発生時期 連続発生  
発生量 並  
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少(－)  
(2) 気温は平年並か低い(+)
- 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。

#### カメムシ類

- 発生時期 連続発生  
発生量 やや多  
予報の根拠 (1) 予察灯での誘殺数はやや多(+)  
(2) 気温は平年並か低い(±)
- 防除上の注意事項 (1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。

#### ハダニ類(なし、りんご)

- 発生時期 連続発生  
発生量 並  
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少(－)  
(2) 気温は平年並か低い(±)  
(3) 降水量は平年並みか多い(±)
- 防除上の注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。  
(2) 発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

## 4 野菜・花きの病害虫

#### うどんこ病

- 発生時期 連続発生

発生量 並  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
 (2) 気温は平年並か低い (±)  
 防除上の注意事項 (1) 過繁茂を避ける。  
 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期 連続発生  
 発生量 並  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
 (2) 気温は平年並か低い (±)  
 防除上の注意事項 (1) 作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病

発生時期 連続発生  
 発生量 やや多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生はやや多 (+)  
 (2) 気温は平年並か低い (±)  
 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。  
 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期 連続発生  
 発生量 やや多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少 (-)  
 (2) 気温は平年並か低い (+)  
 (3) 降水量は平年並か多い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。  
 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ疫病

発生時期 連続発生  
 発生量 やや少  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)  
 (2) 降水量はほぼ平年並か多い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。  
 (2) ほ場の排水に努める。

カボチャ疫病

発生時期 連続発生  
 発生量 やや少  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)  
 (2) 降水量はほぼ平年並か多い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。  
 (2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は平年並か低い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か低い (±) (3) 降水量は平年並か多い (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。 (2) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

コガネムシ類 (さつまいも、やまのいも)

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) ヒメコガネ、ドウガネブイブイの予察灯誘殺数はやや多 (+) (3) 気温は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は7月下旬から8月上旬である。